OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日韓政治ディスコースにおける正当化ストラテジー：批判的談話分析による異文化間対照の試み
Author(s)	韓, 娥凜
Citation	阪大日本語研究. 2018, 30, p. 41-69
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70098
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大日本語研究』30（2018）

日韓政治ディスコースにおける正当化ストラテジー
—批判的談話分析による異文化間対照の試み—

Strategies of justification used in Japan and Korea's political discourse: An attempt to Critical discourse analysis as a new approach for intercultural contrastive

韓 娥凜
HAN Ahreum

キーワード：政治ディスコース、批判的談話分析、説得、正当化ストラテジー、異文化間対照

要旨

本稿では、日韓の政治ディスコースにおける正当化のストラテジーを異文化間対照するため、従来の研究を概観し、新たな分析枠組みを提案するとともに、ケーススタディーによるその検証を行なった。政治家は有権者を説得し、賛同を得るため、自分の意見や意図を効果的に伝え、支持を求める必要がある。このような同じ目的の下で、互いに異なる社会・文化的背景を持つ日本と韓国の政治家は、どのようなことばを駆使して正当化を図るのか。両国の政治ディスコースにおける正当化ストラテジーを異文化間対照するために、分析枠組みの検討とその有効性の検証を試みた。具体的には、従来の研究における正当化のストラテジーを「リポート（report）による権威付け」、「二分化による対立のフレーム作り」、「ラポート（rapport）による一体化」の3つに再分類し、それによるケーススタディーを行なった。その結果、1》街頭演説では論理の根拠を示す「リポート（report）による権威付け」よりも、「二分化による対立のフレーム作り」や「ラポート（rapport）による一体化」といったストラテジーが説得の手段として多く取りあげられる、2》日本よりも韓国の政治ディスコースにおいて有権者の感情を刺激し、訴えるようなストラテジーが頻繁に用いられる、3》倫理的価値の評価は、日韓それぞれの社会・文化的な要因によって影響される、といった3つの仮説を発見することができた。

1. はじめに

政治家は「相手を説得し、賛同を得る」ため、政治的なディスコースを駆使して自分の意見や意図を具体的に説明する。例えば、選挙演説のような政治ディスコースでは、話し手と聞き手が明確な形で会話に参加し、互いに談話を構築していく日常会話とは異なり、聞き手の直接的な関わりはほとんどみられず、話し手である政治家が聞き手を意識し、あらゆる手法を用いて談話を構築していく。そのため、一人の政治家が不特定多数の聴衆に向かって行なう政治ディスコースにおいては、いかに聴衆を惹きつけ、自分を正当化するかが説得の成功とも繋がる。本稿では、日韓の政治ディスコースにおける正当化のメカニズムを分析するためにどのような

観点と枠組みが必要なのかについて、従来の研究を踏まえ、新たなアプローチを提案することを試みる。

本稿の構成は、§2で本研究の目的を述べ、§3で正当化ストラテジーの異文化間対照に必要な分析枠組みについて検討する。§4はケーススタディーの概要、§5～7はケーススタディーの結果を示す。§8は考察、§9はまとめと今後の課題である。

2. 本研究の目的

本稿の狙いは、政治ディスコースを単に言語研究を行なうための材料として扱うのではなく、社会・政治的コンテクストと結びつけて総合的に考察することである。このような観点は語用論や社会言語学、批判的談話分析などの研究分野において盛んに行なわれてきた。同じ目的を持つディスコースが異なる文化、宗教、職業などの言語外的要因の下でどのように異なってくるのかを説明することは語用論の重要な研究課題である。それはまた、社会とことばの関係性に注目し、ことばがわれわれの生活の中でどのような影響を与えているのかを明らかにする社会言語学とも関連がある。さらに、Fairclough（1989）やvan Dijk（1995）らによって展開された批判的談話分析は、ことばを社会における権力作用やイデオロギーを解明するための手がかりとしてきた。もちろん、政治ディスコースもこれらの学問分野において研究対象として取りあげられてきたが、政治ディスコースと社会との関係性、権力作用とことばの関係に注目し、かつ、異なる社会・文化的要因を考慮した異文化間対照を試みるという問題意識を同時に扱う研究は盛んではないように考えられる。

本稿では、隣接した国であり、政治的にも密接な関係にある日本と韓国の政治ディスコースを取り上げ、「正当化」のために用いられることばの操作を異文化間対照の観点から明らかにすることを目指す。従来の政治ディスコース研究では、ある特定の国や社会、個人の言語使用上の特徴と権力とを結びつけて批判的に捉えようとするものは見受けられるが、政治ディスコースの本質とは何かに迫ろうとする異文化間対照はあまりみられない。すなわち、同じ目的を持ち、似たようなコンテクストの中で日韓の政治家がそれぞれどのようなことばを用いて自分の目的を正当化するのかを分析することによって、政治ディスコースそのもの本質に近づくことができるのではないかと考えられる。政治ディスコースにおける説得のありかたを明らかにし、それに用いられる正当化のストラテジーを異文化間対照するためには、まず、対照に用いる分析枠組みの検討が必要だと考えられる。そこで、本稿では従来の先行研究の検討を踏まえ、正当化のストラテジーを対照する上で適切な枠組みとは何かを提案し、その枠組みを用いた日韓政治ディスコースのケーススタディーの結果を述べる。

3.　正当化ストラテジーの異文化間対照のための分析枠組みの検討

政治ディスコースは社会的実践の一つであり、説得の場において正当化を伴うものである。そのため、日韓両社会における政治ディスコースを取りあげ、異文化間対照することによって、正当化ストラテジーの異同を確認することはもちろん、両国の社会・文化的要因が政治家のことばの運用にどのように関わっているかを理解する手がかりとなる。これまでディスコースにおける説得や正当化の研究ではさまざまな分析枠組みが提案されてきたが、正当化のストラテジーを異文化間対照するための有効な枠組みを提案した研究は管見の限りみあたらない。本節では従来の先行研究を踏まえ、政治ディスコースにおける正当化ストラテジーを異文化間対照する際に、どのような分析枠組みが有効なのかについて検討する。

3. 1.　説得の3要素：ロゴス・エトス・パトス

「説得」は政治ディスコースにおいて欠かせないものであり、その重要性は古くから強調されてきた。古代ギリシャの哲学者であるアリストテレスは、『弁論術』において人を説得するためには、論理を表す「ロゴス」、理性と信頼を表す「エトス」、感情と共感を表す「パトス」という3つの要素の適切な運用が必要であると述べている。まず、「ロゴス」は主張の根拠を挙げ、定義づけるなど、説得する相手が納得するように説明することを表す。次に、「エトス」は個人の人間性、品格、気質、倫理感などを強調し、相手が説得に応じられるように信頼を与えることを表す。最後に、「パトス」は感情に訴え、共感を得ることで相手を動かすことを意味する。アリストテレスによると、この3つの要素はそれぞれが独立するものではなく、互いに有機的に結びついている。例えば、相手を納得させるため説明を行なう「ロゴス」による論理展開は「パトス」の感情に訴えることにつながることもできる。また、相手に共感を示す「パトス」から信頼を構築する「エトス」に結びつくことで最終的に「説得」という目的を達成できるわけである。

イ（2007）は、このアリストテレスによる説得の3要素を手掛かりに韓国の歴代大統領4人の演説を取り上げ、以下のようなタイプを提示した。

表1　ロゴス・エトス・パトスのタイプ（イ2007：293-297）

ロゴス	事実根拠（具体的な数値、年度、人数など）、主張、海外事例、観察根拠、逸話
エトス	政治家の信念、政治家の行動、権力の正当性
パトス	親切／理解／友情／信頼／愛、同情／悲しみ、不安、怒り／失望、同一視誘導

イ（2007）の研究では、韓国の大統領演説におけるロゴスの場合、「過去、50年間の総計より2.5倍以上儲けることで国家発展に貢献した」のように、具体的な数値や統計などを掲げて事実根拠を示すこと、または「民主党が先に公開しろという要求もあります。しかし、与野党が同時に公開しないと政治改革に役立ちません」のように主張を述べることや海外事例を紹介すること、「皆さんの中には○○を見た方がいらっしゃるでしょう」のように観察の根拠を示すこと、支持者とのエピソードを紹介する逸話などがロゴスに該当するとされている。次に、エトスの場合は「信じる」「覚悟する」「約束する」などの述語を用いた「信念」を表す陳述や、「最善を尽くしてきました」「－について悩んでいました」「－努力してきました」のように大統領としての「行動」を示すもの、そして「－のためすべてを捧げました」「独裁政治の下、迫害を受けました」「今の政府は～の政府です」のような表現が「権力の正当性」を表すと分析している。最後に、「パトス」の場合は、「国民の皆さんの熱いご声援に答えるため」「互いに信頼し、愛するために」「皆様のおかげで」のように、国民との間に「親切／理解／友情／信頼／愛」などの感情に訴えるような陳述や、「悲しい事実です」「（ある事件が）我々を悲しませます」のように「同情／悲しみ」を表す表現を用いること、「暴力、革命、破壊、煽動なのです」のように「不安」を刺激すること、「国民の皆さんの怒りや失望が大きいと思います」のように「怒り／失望」に触れること、「－できませんでしょうか」のように聴衆に向かって問いかけることなどによって「同一視誘導」ができるとされている。しかし、これらのタイプに分類されている事例をみると、そのまま日韓政治ディスコースの分析に援用するには問題があるように考えられる。例えば、イ（2007）では、ロゴスのタイプの中で「主張」と「海外事例」、「観察根拠」などがすべて同じレベルとして取り上げられているが、「海外事例」のようなものを「主張」の根拠として用いることも十分に可能であるため、これらの分類カテゴリーをより具体的なものにしなければならないと考えられる。また、ロゴスに分類されている「逸話」も場合によっては「パトス」のために用いることもできる。すなわち、政治ディスコースを異文化間対照するには、抽象度の高いレベルをそのまま用いるよりも、これらを土台により詳細な分析枠組みの提示が必要であると考えられる。したがって次の§3.2では、分析枠組みを具体化したと知られているVan Leeuwen（1995）による「正当化の文法（grammar of legitimation）」を取りあげ、政治ディスコースの異文化間対照に援用できるか否かを検討する。

3. 2. 正当化の文法

批判的談話分析のアプローチにおいて、正当化は社会における権力やイデオロギー構造を把握するための有効な手段として扱われている。Van Leeuwen（1995）は「正当化の文法（grammar of legitimation）」という分析の枠組みを提案し、権威化（authorization）、倫理

的評価（moral evaluation）、合理化（rationalization）、神話作成（mythopoesis）という4つのストラテジーが単独で、または互いに結合して用いられると述べている。それぞれについて以下の§3.2.1から§3.2.4で詳細を示す。

3. 2. 1.　権威化

Van Leeuwen（1995）によると、権威化（authorization）とは、「伝統、習慣、法律の権威、および、ある種の制度的な権威が付与された人々の権威を参照（reference）すること」で正当化を図ることである。つまり、「なぜ、われわれはそれをするべきか」「なぜ、これに従わなければならないのか」を語る場合、自分または自分の主張に権威を与えることによって正当化するということである。以下、権威化の6つのタイプを原著で挙げられている例とともに示す。

① 個人的な権威：個人の地位や役割について言及すること
“It’s time to go home”she [the mother]said.

② 非個人的な権威：法律、規則、規定などに言及すること
Playtime is usually a compulsory break in the program.

③ 専門家の権威：専門家の意見を主張の根拠とすること
Dr. Juan believes it may be a good idea to spend some time with the child in class.

④ 役割モデルの権威：憧れの対象にみられるもの
The wise teacher finds out the correct way to pronounce the child’s name.

⑤ 伝統の権威
It was the practice for children in infant schools to be given milk daily.

⑥ 多数／順応による権威：多くの人または多数が行なうことなら、自分も従わなければならないと思わせること
Many schools now adopt this practice.

上の6つのタイプは「権威（Authority）」「勧告・推薦（Recommendation）」「慣習（Custom）」という3つのレベルに属するものである（Van Leeuwen1995：109）。「権威」には、個人／非個人の権威（①と②）、「勧告・推薦」には、専門家や役割モデルへの言及（③と④）、「慣習」には伝統、多数による権威化（⑤と⑥）が該当すると述べられている。Van Leeuwen（1995）では、単文レベルを対象としており、その中に用いられる特定のことばが表す意味が分類の基準になっていると考えられる。例えば、①「個人の権威」は「母（the mother）」のような主体の属性が、②「非個人的な権威」は「（法・命令によって）強制的な（compulsory）」という語の意味から成立していることがわかる。つまり、「権威」はその存在自体が影響力を

持っていることを含意しているのに対し、「勧告・推薦」は第三者の権威を借りて論拠として立てることになる。最後に、「慣習」はより抽象的なレベルであり、社会的な価値、一般常識のように暗黙裡に同意されてきたことから権威づけることを意味する。これらの「権威化」が政治ディスコースの中でどのようなストラテジーとして働くのかを考察する際には、「含意」と「前提」の把握が重要な手掛かりになると考えられる。

3. 2. 2. 倫理的評価

倫理的評価（moral evaluation）は、「良い／悪い」のようなことばの倫理的な価値に基づき、その価値システムを参照することによって行なわれる正当化のストラテジーである。例えば、アメリカのブッシュ大統領が9月11日米国テロ攻撃事件以降、テロ勢力のことを「悪の枢軸（axis of evil）」と言及したことはこの倫理的評価の一例として挙げられる。Van Leeuwen（1995）は、倫理的評価は価値判断を前提とするため、他の正当化ストラテジーとも有機的につながっていると指摘している。倫理的評価は、「評価」「抽象」「比較」の3つに分けられる。

① 評価（evaluation）：価値評価を表す形容詞の使用
It is perfectly normal to be anxious about starting school.

② 抽象（abstraction）：ある行為をそれと関わる倫理的価値を導き出し、関連付けること
（行為）The child goes to school for the first time
（抽象）The child takes up independence.
（倫理的価値との関連付け）Schooling →independence

③ 比較（Positive／nagative Comparision）：
肯定的／否定的な価値評価の対象を対句で示したり、ナラティブやテキストにおいて交差的に示したりすること

これらの倫理的評価は、正当化をする上で前提となるものであり、ディスコースの中で明示的・非明示的に表れる。「評価」は nomal、natural のような形容詞を用いて「当然なるもの」「自然なもの」という一般化を行い、正当化することを表す。これは前述した「権威化」における「慣習」ともかかわるものである。つまり、「倫理的評価」における「評価」は正当化の前提となるものであり、対象に対する直接的な言及を必要とする場合が多いということである。これらの「評価」によって「慣習」を納得させることができるため、「倫理的評価」は「権威化」の道具としても働くと考えられる。Rojo & Van Dijk（1997）では、政治家が「一致・多数の意見として示すこと」や「民主主義」の価値、「慎重さ」「配慮する態度」などを表すことがこの「倫理的評価」に位置付けられると述べられている。一方で、②「抽象」は、形容詞などの言語表現によって明示的に正当化を図るよりも、ある行為からそれとかかわる倫理的評価を導

き出して関連付けることを意味するため、含意として非明示的に述べられることが多いと考えられる。最後に、③「比較」は、肯定的な価値評価の対象を述べる際に、その反対のものを対句や対照として示し、効果を強めることを表す。これは、単語のレベルから命題、段落、談話全体の構造などさまざまなレベルで用いられる。

3. 2. 3.　合理化

合理化（rationalization）は、制度的な行為の有用性、および、それらの行為に認識的妥当性を付与するために社会が構築してきた知識を参照することによる正当化のストラテジーである。合理化は、道具的合理化と理論的合理化の2つに分類される。

① 道具的合理化（instrumental rationalization）:「目標（goal）」「手段（means）」「効果（effect）」
His mother joins the queue to pay his dinner money to the teacher.

② 理論的合理化（theoretical rationalization）:「定義（definition）」「説明（explanation）」「予測（prediction）」

まず、「道具的合理化」は、ある含意された目的を想定しており、その目的の達成における有用性の観点から、行為や手順や構造を「目標」「手段」「効果」によって正当化することを表す。英語では目的を表す前置詞“to”の使用や“in order to”、“so as to”を用いて「目標」「手段」を表すことができる。「効果」の場合、“so that”、“that way”などが道具的合理化として用いられることが述べられている。次に、「理論的合理化」は社会を構築・維持させる「真理」に基づいたものであり、具体的には「定義」「説明」「予測」の3つの形式によって行なわれるという。まず、「定義」は“is”、“constitutes”、“necessary”などによって表現され、根拠に基づいて定義付けを行なうことにより正当化を図ることを意味する。「説明」は合理化の理由づけを行なうため、主張を述べることである。最後に、「予測」は“will”、“must”などを用いて現状に対する主張とともに将来に対する予測を経験的または科学的に行なうことである。しかし、これらの分類はそのままディスコース分析に用いるにはやや抽象的であり、「定義」と「説明」のように必然的に意味が重複する場合もある。Rojo & Van Dijk（1997）が、政治ディスコースにおける「合理化」を分析した結果、仮定を用いた「脅し」、「比較」、「不可避性の強調」などの戦略的な使用が目立つことを指摘しているように、道具的・理論的合理化を用いることによって、政治ディスコースの中でどのような正当化のストラテジーの効果が生み出されるのかを考慮しなければならない。そのためには、まず、「説明」「定義」「予測」といったそれぞれのカテゴリーの中で実際に駆使されていることばの特徴をさらに検討する必要があると考えられる。

3. 2. 4.　神話作成

最後に、神話作成（mythopoesis）は、「正当な行為は補償し、不当な行為は批判する内容のナラティブを通して伝えられるもの」であり、具体的には倫理、教訓、象徴などが挙げられている。例えば「私たちが必然的な政策を実行すれば良いことが起き、もしそうしなければ悪いことが起きる」のように、良いことと悪いことの「対比」や将来の「予測」などが用いられる（Fairclough2003：157）。神話作成は、イメージ構築に影響を与えることが多く、それによって正当化が行なわれる。Van Leeuwen（1995）では、神話作成が「語り」や「ナラティブ」によって行なわれるとのみ述べられ、具体的な言語的特徴については言及していない。しかし、すべてのナラティブが神話作成になるわけではないため、語りの中で表れる「正当な行為」と「不当な行為」の主体となるものに注目しなければならないと考えられる。Reyes（2011）はアメリカの大統領がイラク派兵を正当化するディスコースを取り上げ、「（問題解決による）仮定的な未来を提示する」ことを神話作成の例として示した。Rojo & Van Dijk（1997）も、Van Leeuwen（1995）の分類のうち、「神話作成」は他のストラテジーの手段的な性格が強いことを指摘している。つまり、「権威化」「合理化」が正当化を行なう際に、論拠として扱われる性格が強いとすれば、「神話作成」は誰もが納得できるような根拠を示さなくても「仮定」や「前提」によって成立できるため、性格が異なるレベルであることが指摘できる。

3. 3.　正当化の理由づけタイプ

§3.1 と §3.2 で紹介した正当化の概念は、一見具体的な分析項目を示し、カテゴリー化しているようにみえるが、その詳細をみると、まだ抽象的なものが多く、そのまま日韓の異文化間対照の分析基準として利用することは難しいと考えられる。Van Leeuwen（1995）も、この4つのストラテジーがそれぞれ単独で成り立つと主張しているわけではなく、互いに有機的な関係を持ち、複合的に用いられる時こそ正当化の効果が生み出されると述べている。正当化を説得の手段として捉えようとするなら、説得の理由づけのタイプを言語表現に焦点を当てて分析した論考も検討する必要がある。

説得コミュニケーションの分野においては、正当化の研究が重要な手掛かりとして扱われている。正当化の理由づけに関する代表的な論考には、足立（1984）、川上（1986）、吉田（1990）が挙げられる。川上（1986）は「説得」を「ある一定の具体的行動と関連し、それを阻止したり、または受け入れたりする行為」と述べている。足立（1984）も説得そのものが「ある価値、行為規範を受容させるための言語行為」であると定義し、これらを可能とする言語的装置を「説得標識」として取り上げている。足立の説得標識には、「～すべきだ、~ してはいけない」のような「当為言標識」、「～が大事だ、～が良い／悪い」という「評価標識」、「～自然だ、

～が利である、～が役に立つ」のような「評価相似言標識」、「AとはBである」のような「定義標識」がある。これらの説得標識は「なぜなら、～だから」などの「正当化言」と組み合わされて、「説得」の構造が成り立つという。さらに、吉田（1990）は、足立（1984）による11種類の正当化タイプ（一般化、類似、比較、分類、徴候、因果関係、ルール、理念、定義、証言、比喩）を再分類し、以下のような8つのタイプにまとめている。

【1】一般化（Generalization）

論拠からの許容されうる一般化であるという理由によって、主張が正当化される

【2】論拠と主張における記述の関係（Relation）**明示**

【2-1】類似（literal Analogy）：論拠から主張への推論上の飛躍は、論拠におけるケースと、主張におけるケースとが、本質的諸点において類似している（相違でない）ことによって正当化される

【2-2】比較（Comparison）：「そうであることの可能性がより小さいところでそうであることは、そうである可能性がより大きいところではなおさら（a fortiori）そうであろう」という形で正当化される

【2-3】分類（Claasification）：「あるカテゴリーについて一般にそうであることは、そのカテゴリーに属する個々のものについてもおそらくそうであろう」という原理によって、（論拠から主張への推論上の飛躍が）正当化される

【2-4】因果関係

【2-5】比喩（Figurative Analogy）：「これは、一般に広く知られた事柄から、それとは別のカテゴリーに属するあるものについての主張を導き出そうとする議論である」。論拠には、「たとえ話、伝説、伝承、歴史的エピソード、ことわざ、古典の一節など、様々なものが用いられる。」

【3】徴候ないし印（Sign）：

論拠から主張への移行は、「論拠で述べられているところの諸事情は、たしかに主張で述べられているところの事柄の印である（かくかくしかじかの印が存在する以上、かくかくしかじかの事柄が存在すると考えるのは正当である、合理的である）」という原理によって正当化される

【4】定義（Deifinition）：

受信者を説得する目的で用語の説明や定義が行なわれること

【5】価値ないし価値観（Value）**の使用**

【5-1】ルールの持ち出し：「論拠から主張への推論上の飛躍が法、規則、推定、習慣などとして社会システムの中に制度化されているようなルールによって正当化」される

【5-2】理念（Idea）**ないし信念**（Belief）

【6】証言（Testimony）**の持ち出し**：

第三者の発言を引用し、それを主張の根拠として持ち出すこと

【7】レッテル（Lettel）**の貼りつけ**：

論拠から主張への移行の際に、言及される対象の性格や属性など取り上げ、レッテル貼りし、定義づけること

【8】理由づけの無いタイプ：

主張と根拠を結びつける「理由」を明示しないもの

吉田（1990）は、前述した足立（1984）の「説得標識」を手がかりに該当する記述を抽出し、その中に用いられている正当化の論理展開を明らかにすることで「説得」の本質を分析することができると述べている。再分類の際に、吉田（1990）では、足立（1984）の11分類のうち、「類似」「比較」「分類」「因果関係」「比喩」は主張とその論拠の示し方における「関係」を表すものであると述べ、一つの項目にまとめている。その上で、【7】レッテル（Lettel）の貼りつけを新しく追加しているが、その具体例は以下のようなものである。

《論拠》君は彼にひどい恥をかかせた。――――>《主張》彼は必ず君に復讐する。

↑《理由づけ》彼は、名誉を重んじる男だから

レッテル張り

（吉田1990：46）

レッテル張りは、「論拠から主張への移行の際に、言及される対象の性格や属性などを取り上げ、定義づけること」となっているが、これは広義には【4】定義と重なる点がある。Ilie（2009）は、「定義（Deifinition）は単に主張を述べるためだけではなく、相手を説得するための手段として用いられる。レッテル張りによって文字通りの意味と含意によって生まれる立場の違いを明確に示すことができる」と述べており、レッテル張りが定義の一つであることが分かる。上述したような正当化のタイプは、§3.1と§3.2で取り上げたアリストテレスによる説得の3要素やVan Leeuwen（1995）による正当化の文法とも共通するところが多数みられる。以下、§3.4では、これらの枠組みを総合し、政治ディスコースにおける正当化のあり方を異文化間対照するためにはどのような分析枠組みが有効か、ということについて検討する。

3.4. 正当化ストラテジーの分析枠組み

§3.1から§3.3までの先行研究における正当化の分析枠組みで取り上げられた項目をまとめると、表1のようになる。これらの分析枠組みは、すべて「説得」のための正当化という点で共通している。Van Leeuwen（1995）による「合理化」と「権威化」の一部である「個人的

権威」「非個人的権威」は、アリストテレスでいう「ロゴス」の性格と一致するところが多いと考えられる。「ロゴス」の定義は「相手を納得させるため、根拠・論拠を提示し、説明を行なうことで説得につなげる」ことであるが、Van Leeuwen（1995）による「道具的合理化（目標・手段・効果）」と「理論的合理化（定義・説明・予測）」はすなわち「ロゴス」に叶う論証の道具として捉えられる。また、表1をみると、「権威化」は「ロゴス」と「エトス」の間にまたがっているが、これは「権威化」が「ロゴス」と「エトス」の交集合的な性格を持つことを表す。Van Leeuwen（1995）は「権威化」を、自分自身や主張を権威付けるため行なう「権威」、専門家の意見や多くの人から憧れる存在の意見を引用して権威付ける「勧告・推薦」、社会一般に受け入れられている常識や伝統などに触れる「慣習」の3つに分類している。この中で「権威」の「個人的な権威」と「非個人的な権威」が「ロゴス」の領域に入るものであると考え

表1　従来の研究における正当化のストラテジー

<table>
<tr><th>アリストテレス
説得の3要素</th><th>イ（2007）</th><th colspan="3">Van Leeuwen（1995）正当化の文法</th><th>吉田（1990）理由づけのタイプ</th></tr>
<tr><td rowspan="8">ロゴス（論理）</td><td rowspan="8">事実根拠
主張
海外事例
観察根拠
逸話</td><td rowspan="5">合理化</td><td rowspan="3">道具的合理化</td><td>目標</td><td></td></tr>
<tr><td>手段</td><td></td></tr>
<tr><td>効果</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">理論的合理化</td><td>定義</td><td>【4】定義、【7】レッテルの貼りつけ</td></tr>
<tr><td>説明</td><td>【2】論拠と主張における記述の関係明示
【2-1】類似、【2-2】比較、【2-3】分類、【2-4】因果関係、【2-5】比喩</td></tr>
<tr><td colspan="2">予測</td><td>【3】徴候ないし印</td></tr>
<tr><td rowspan="5">権威化</td><td rowspan="2">権威</td><td>個人的な権威</td><td></td></tr>
<tr><td>非個人的な権威</td><td>【5-1】ルールの持ち出し</td></tr>
<tr><td rowspan="4">エトス（理性）</td><td rowspan="4">政治家の信念
政治家の行動
権力の正当性</td><td rowspan="2">勧告・推薦</td><td>専門家の権威</td><td rowspan="2">【6】証言を持ち出し</td></tr>
<tr><td>役割モデルの権威</td></tr>
<tr><td rowspan="2">慣習</td><td>伝統の権威</td><td rowspan="2">【1】一般化</td></tr>
<tr><td>多数／順応による権威</td></tr>
<tr><td rowspan="3">パトス（感情）</td><td rowspan="3">親切／理解／友情／信頼／愛
同情／悲しみ
不安、怒り／失望
同一視誘導</td><td rowspan="2">倫理的評価</td><td colspan="2">評価</td><td>【5】価値ないし価値観の使用
【5-2】理念ないし信念</td></tr>
<tr><td colspan="2">抽象</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">比較（肯定・否定）</td><td>【2-2】比較</td></tr>
<tr><td>神話作成</td><td colspan="2">道徳、教訓などナラティブ</td><td>【8】理由づけの無いタイプ</td></tr>
</table>

られる。前者は主張やその主張に対する事実根拠を示すこと、後者は海外事例や吉田（1990）でいうルールの持ち出しなどによって成立する。このような「権威付け」は、「合理化」と同じく「ロゴス」に該当し、相手を納得させるための説明の根拠として用いられると考えられる。表1の右側にある吉田（1990）の理由付けタイプは、Van Leeuwen（1995）による「合理化」のあり方をより具体化することができると考えられるが、§3.2で前述した通り、一部のタイプは互いに重複することがある。例えば、【7】レッテルの貼り付けは【4】定義の下位分類として統合することもできる。

これらの検討を踏まえ、アリストテレスによる「ロゴス」、Van Leeuwen（1995）による「合理化」と「権威化の一部」、吉田（1990）の理由付けタイプの中で【4】定義、【2】論証と主張における記述の関係明示、【3】徴候ないし印（Van Leeuwen（1995）による「予測」と重複）を統合・再分類し、以下のような新しい分析枠組みを提案したい。

正当化ストラテジー【タイプA】:「リポート（report）による権威付け」

〔1〕 社会的に合意されたルール（法律、規則、規定など）の持ち出し

〔2〕 専門家による証言の持ち出し

〔3〕 統計・数値の持ち出し

〔4〕 特定・不特定多数の支持層を味方として提示

〔5〕 自分の立場や経験・履歴を誇る

アリストテレスの「ロゴス」を大きな軸とし、相手に自分の主張を納得させるために、客観的な証拠、根拠を提示しながら正当化を図ることを本稿では正当化ストラテジー【タイプA】:「リポート（report）による権威付け」と名づける。これらは、5つの下位ストラテジーからなる。

まず、〔1〕は主張の展開に法律や規則、規定など社会的に合意されたルールを持ち出すことで正当化を図るストラテジーを意味する。〔2〕は主張の根拠として専門家による証言を引用することである。〔3〕は統計や数値のデータを発言の中に引用し、自分の主張を展開することで客観的に見せるストラテジーを表す。〔4〕は特定または不特定の支持層と関わるエピソードや支援を強調し、自分の味方として示すことで有権者の投票を促すストラテジーである。つまり、その支持層が本当であろうが架空であろうが、自分が多数の人から支持されている点を訴えることによって自分自身を権威付けるストラテジーである。最後に〔5〕は自分の立場やこれまでやってきた活動、経験などを訴え、履歴を誇ることで有権者の支持を導こうとするストラテジーを指す。

一方で、信頼や理性に基づく説得である「エトス」の場合は、聴衆に対して話し手を権威付け、肯定的なものとして評価することによって成立する。Van Leeuwen（1995）による「権

威化」のうち、専門家の意見や多くの人から憧れる存在の意見を引用し、権威付ける「勧告・推薦」と社会一般に受け入れられている常識や伝統などに触れる「慣習」は「エトス」を作り上げる手段として働くと考えられる。また「倫理的評価」の一部である「評価」と「抽象」も話し手である政治家に信頼を与え、それぞれの信念や価値観などを正当化するための手段として用いられると考えられる。政治選挙のコンテクストにおいて、政治家は自分の信念や価値観を有権者に伝え、説得することによって支持を求める。この場合、必然的に対立する側が存在し、「ウチ」と「ソト」といった対立のフレームが構築される。van Dijk（1993）は「両極化のスキーマ（polarization schema）」を掲げ、話し手に有利な方向に人々を惹きつけ、なんらかの影響を与えようとする際、「ウチ（we-code）」と「ソト（they-code）」といった両極化のスキーマを設定し、「ウチ」を肯定的なものとして評価、「ソト」を否定的なものとして描写することによって、イデオロギーを構築できると述べている。アリストテレスによる「エトス」が聞き手に対して話し手への信頼を与え、それぞれが持っている信念、意志などを正当化することであるとすると、信念・価値に基づいた二分化の対立構造が背景となり、Van Leeuwen（1995）が挙げたような「権威化」や「倫理的評価」などが手段として用いられるわけである。これらの観点を反映したものとして、本稿では以下の【タイプB】「二分化による対立のフレーム作り」という正当化ストラテジーを提案する。

正当化ストラテジー【タイプB】「二分化による対立のフレーム作り」

〔1〕 自己犠牲や自己反省の明示

〔2〕 対立する側の態度、信念・思想を疑う

〔3〕 自分に不利な情報の縮小・隠ぺい

〔4〕 対立する側の不利な情報を取り上げ・批判

〔5〕 倫理的価値を評価する

上の〔1〕から〔5〕は、有権者に自分や自分の信念、思想などの価値観を肯定的なものとして伝え、「信頼」を求めることはもちろん、これから進めていく政策や計画などを正当化する際に用いられると考えられる。その際のストラテジーとして〔1〕自己犠牲や自己反省について言及することにより、新たな態度や覚悟を有権者に訴える。または、〔2〕や〔4〕のように対立する側、つまり、「ソト」の集団が持っている価値や信念などを疑い、否定することによって自分への支持を集める効果を生み出すこともできる。また、〔3〕のように自分に不利な情報を縮小、隠蔽することによって肯定的な存在として示し、正当化することも考えられる。〔5〕倫理的価値を評価することは、「ウチ」と「ソト」という二分化による対立フレームを作り、社会通念や価値観、美徳と思われることを取りあげ、正当化を図ることである。これらのストラテジーがディスコースの中で駆使される際、日韓におけることばの特徴や運用の方法には異同が

あると考えられる。

最後に聞き手の感情や情緒に触れることで説得する「パトス」は、Van Leeuwen（1995）でいう「倫理的評価」と「神話作成」とも共通する。論理的・道徳的価値に基づき、「（肯定／否定）比較」を行なうことによって聞き手に同意を求めることから、「神話作成」のように理由づけのための明確な論証はなくても希望的な未来を語りつつ、ただ訴えることで正当化を図ることもできると考えられる。高田（2014）は、ヒトラーの演説を分析し、大衆を説得するためには論理よりも感情を刺激することが有効であるとされていたことを指摘した。ナラティブのような形を用いて聴衆の感情に訴えようとする際に、具体的にどのようなことばのストラテジーが用いられるのかについては、Van Leeuwen（1995）では確認することができなかった。ロゴス・エトス・パトスを分析基準とし、韓国の大統領の演説における正当化を分析したイ（2007）では、この点が比較的明らかにされている。韓国の大統領は、親切・理解・友情・信頼・愛、同情・悲しみ、不安・怒り／失望の感情に言及することによって国民との一体化を図ろうとしている点が特徴であるという。倫理的評価と神話作成は「価値」に基づいた正当化であることを考えると、これらを分析枠組みとしてそのまま利用するより、追加的な記述が必要だと考えられる。したがって、本稿では【タイプC】「ラポート（rapport）による一体化」と名づけ、以下のような正当化ストラテジーに再分類したい。

正当化ストラテジー【タイプC】「ラポート（rapport）による一体化」

〔1〕 有権者を権威化し、参加を促す

〔2〕 同意・共感の提示による連帯化

〔3〕 希望的未来の提案

〔4〕 危機状況を取り立てる

〔1〕有権者を権威化し、参加を促すことは、【タイプA】や【タイプB】で取り上げた「権威化」とは異なり、話し手や話し手の主張を権威付けることではなく、有権者である聞き手への敬意を示し、褒めたてることによって、有権者としての権利を強調し、選挙への参加を促すことを表す。〔2〕同意・共感の提示による連帯化は、社会問題や地域の状況などに触れ、その中で有権者が経験している気持ちや意見に同意を示すことである。同意・共感を示すことによって自分を有権者と同じグループに位置させ、連帯化を図ることにより正当化するストラテジーを表す。〔3〕は、政治家が自分の当選した後の未来を希望的なものと仮定し、有権者に提案することで正当化するストラテジーである。〔4〕は有権者の不安や怒りなどを刺激し、危機状況を取り立てることによって自分への支持を求める正当化ストラテジーである。

以上、従来の先行研究をみると、それぞれ独自の観点やデータに基づいた分析枠組みが設定されているが、根本的には共通する点が多いことが分かった。したがって、本稿では、さまざま

な分析枠組みの中である特定の観点を一つ選び、そのまま日韓の政治ディスコースにおける異文化間対照に用いるのではなく、政治ディスコースの「対立」関係に注目し、日韓の政治家が正当化を図るため、どのようなストラテジーを選択するのかを明らかにするため、上述の【タイプA】【タイプB】【タイプC】に再分類した正当化ストラテジーをもとに、ケーススタディーを行なう。限られたデータの中ではあるが、日韓の政治ディスコースにおける正当化ストラテジーを構築する言語表現にはどのようなものがあるのか、そして両国における運用上の異同はないかについて検討する。この検討により、今後日韓の政治ディスコースを異文化間対照する際に考慮すべき仮説を発見することができると考える。以下、§4では日本の総理大臣と韓国の大統領による演説各1本を取り上げ、そこに用いられている正当化ストラテジー【タイプA】【タイプB】【タイプC】がそれぞれどのように現れているかを事例とともに考察する。

4.　ケーススタディーの概要

4.1.　分析方法

本稿では、ケーススタディーとして安倍晋三日本国総理大臣（以下、安倍首相）と朴槿恵（パク・クネ）韓国大統領（以下、朴大統領）の演説を取り上げる。

分析に用いたデータは、2012年12月に大阪府寝屋川市と韓国大邱市で集録した日韓の街頭演説（いずれも約30分）である。上述した§3.4の分析枠組みを用いて実例を中心に検討を行ない、日韓の政治ディスコースにおいて正当化のストラテジーいかに用いられているのかを探索的に考察する。

4.2.　街頭演説の情報及び話題構成

今回、分析データとして取り上げる街頭演説の情報およびその話題構成は表2の通りである。

日韓ともに「導入（挨拶・自己紹介・背景説明など）」「展開（支持要求・政策説明・対立する側への批判・政権交代の意義など）」「終了（支持要求・投票への促しなど）」という構成となっており、対立する側への批判や政策説明、支持要求は共通している。しかし、両者の演説を詳細にみると、話題構成や話題の語り方には違いがある。すなわち、日本の安倍首相は具体的な政策説明を【E】から【G】にわたって重点的に取り上げているが、韓国の朴大統領の選挙演説では【G】のみであり、【C】や【F】のような野党への批判の話題が繰り返し用いられている。また、政権交代の意義を語り、選挙に挑む覚悟を語る場合も、安倍首相は所属政党の党首としての立場から語っているのに対して、朴大統領は立候補者本人の覚悟を語る話題を取り上げている点が異なっている。

表2　街頭演説の情報および話題構成

【安倍晋三】 当時の野党代表、 次期総理大臣有力候補	話題構成	【朴槿恵（パク・クネ）】 当時の与党代表、 大統領候補
【A】挨拶および自己紹介 【B】選挙をめぐる背景説明	導入部	【A】挨拶および自己紹介 【B】本人の選挙に挑む覚悟
【C】立候補者に対する支持要求 【D】自民党の選挙に挑む覚悟 【E】政策説明（経済問題） 【F】政策説明（雇用と成長戦略） 【G】政策説明（教育問題） 【H】与党批判	展開部	【C】野党批判 【D】政権交代の意義 【E】「国民幸福時代」の説明 【F】野党批判 【G】政策説明（教育問題・社会保障）
【I】政権交代の意義 【J】支持要求と挨拶	終了部	【H】選挙をめぐる背景説明 【J】支持要求と挨拶

5.　正当化ストラテジー【タイプA】: リポート（report）による権威付け

「リポート（report）による権威付け」は、〔1〕社会的に合意されたルール（法律、規則、規定など）の持ち出し、〔2〕専門家による証言の持ち出し、〔3〕統計・数値の持ち出し、〔4〕特定・不特定多数の支持層を味方として提示、〔5〕自分の立場や経験・履歴を取り上げるという5つの下位ストラテジーからなっている。これらは、主張を正当化する際に、具体的な根拠を示し、権威付けるという点で、Van Leeuwen（1995）の「権威化」、アリストテレスの「ロゴス」と重なるところがある。ケーススタディーの結果、朴大統領の演説で〔4〕特定・不特定多数の支持層を味方として提示のみが2回用いられたほかは、他のストラテジーの使用は見られなかった。一方で、安倍首相の演説からは、〔3〕統計・数値の持ち出しが1回、〔5〕自分の立場や経験・履歴を取り上げるが1回用いられている。なお、〔1〕と〔2〕は、今回用いたデータからは日韓ともに使用が見られなかった。

5. 1.　統計・数値の持ち出し

統計・数値の持ち出しは、主張の根拠を示す際に、個人的な意見ではなく、判断の材料となる情報を提供することである。安倍首相の演説の場合、§4.2で述べた通り、「政策説明」が主な話題だったにもかかわらず、具体的な統計・数値を持ち出して説明を行なうことはあまりみられず、一回のみであった。

（1）去年よりも今年いじめの件数は倍増したんです。7万件から14万件、安倍政権時代に

北川さんにも協力をしてもらって日教組が反対してできなかった。すべての学校の学力調査と体力調査と難しかったんですが、いじめ調査も行なった。その結果、学校で何が起こってるのか、教室がどうなってるのかがわかった。

例（1）は、いじめ問題解決のために進めてきた政策について正当化する中で、「いじめ件数が7万件から14万件に倍層した」ことを具体的な数値とともに示していることが分かる。「倍増」というキーワードからいじめ問題の深刻さを伝えると同時に、主張の説得力を高めていると考えられる。

5. 2.　特定・不特定多数の支持層を味方として提示

特定・不特定多数の支持層を味方として提示するストラテジーは、韓国の朴大統領の演説において2回使用がみられた。具体例は以下の通りである。

（2）이제 대구를 떠나서 대한민국을 위해 더 큰 일을 하라는 시민 여러분들의 말씀에 큰 결단을 내렸지만 정말 발길이 떨어지지 않았습니다.

これからは大邱から離れて大韓民国のためにもっと大きな仕事をしろという市民の皆様のお言葉を聞き、大きな決断を下しましたが、本当に足が進まなかったんです。

（3）지금까지 저를 키워주시고 저에게 더 큰 길을 열어주신 대구시민 여러분께 이제 제가 보답해드릴 차례입니다.

今までわたくしを育て、わたくしにもっと大きな道を開いてくださった大邱市民の皆様にこれからはわたくしが恩返しする番です。

これらの例では「市民の皆様」「大邱市民の皆様」が支持層として取り上げられている。また、例（2）の場合は「大邱から離れて大韓民国のためにもっと大きな仕事をしろ」のような支持層からの応援の声を引用し、自分が多数によって支持されている候補であることを訴えている。つまり、「多数の人に支持されている候補」として自分を権威付け、立候補者としての正当性を強調していると考えられる。

5. 3.　自分の立場や経験・履歴を取り上げる

自分の立場や経験・履歴を取り上げることは、主に業績を語ることで自分の長所を有権者に訴え、支持を求めるストラテジーである。朴大統領は、大統領選挙に立候補した当時、数十年の国会議員生活を経て与党であるセヌリ党の代表でもあったが、そのような自分の立場や経歴などを積極的に述べることはなかった。一方で、安倍首相のディスコースでは、一回のみではあるが、以下のようなストラテジーが用いられていた。

（4）そこでわたしたちは当たり前のことを始めたんです。うまくいっている学校のやり方

を、問題を抱えている学校で取り入れていったんです。その結果、安倍政権、福田政権、麻生政権、たった3年間でみなさん、うまくいってる学校と問題を抱えている学校の格差ぐーっと縮まったんです。

例（4）では、学校の格差問題に取り組んできた過去について述べる中で、問題解決のための政策を「当たり前のこと」と定義付け、これまで政治家として何をしてきたのかという業績を有権者に訴えている。業績や地位などを提示することによって有権者が支持できるような判断の根拠を与えているわけである。

6. 正当化ストラテジー【タイプB】：二分化による対立のフレーム作り

正当化ストラテジー【タイプB】は、〔1〕自己犠牲・反省・信念の明示、〔2〕相手の態度、信念・思想を疑う、〔3〕自分に不利な情報の縮小・隠ぺい、〔4〕対立する側の不利な情報を誇張・批判、〔5〕倫理的価値を抽象化するという5つの下位ストラテジーからなる。これらのストラテジーはすべて「ウチ（in-group）」と「ソト（out-group）」といった対立関係を作る働きをすると考えられるものである。分析の結果、朴大統領の演説からは【タイプB】のストラテジーが万遍なく現れ、特に〔2〕や〔4〕のストラテジーを用いて、対立する側を批判し、自分を正当化する傾向が強かった。一方、安倍首相の演説では、対立する側の批判は主に相手の「態度」や「能力の無さ」を指摘していることが多く、政治的な「思想」を疑うようなストラテジーは用いられていなかった。以下、それぞれの代表例を取り上げ、詳細を示す。

6.1. 自己犠牲・自己反省の明示

自己犠牲の姿勢をアピールすることは、権力意志を正当化する手段として用いられる。分析の結果、朴大統領の街頭演説では、このような「自己犠牲」を強調し、政権交代の意志を正当化している特徴が目立っていた。一方、安倍首相の演説からは自己犠牲よりも自己反省を正当化ストラテジーとして用いていることが分かった。

（5）저의 정치 마지막 정치 인생을 모두 바쳐서 우리 대구를 크게 발전시키고 우리 국민 모두가 행복한 대한민국을 반드시 건설 하겠습니다. 분열과 갈등의 실패한 과거를 끝내고 민생과 통합의 미래로 나아갈 수 있도록 대구시민 여러분께서 압도적인 지지를 보내주십시오. 저 박근혜 저의 모든 것을 바쳐서 여러분의 성원에 보답하고 국민 행복시대 반드시 열어 가겠습니다.

（わたくしの政治、最後の政治人生のすべてを捧げて大邱を大きく発展させ、国民の皆が幸せな大韓民国を必ず建設します。分裂と葛藤の失敗した過去を終わらせ、民生と統合

の未来に進んでいけるように、大邱市民の皆様が圧倒的な支持を送ってください。わたくし朴槿恵、わたくしのすべてを捧げて皆様の声援に答え、国民幸福時代必ず開いていきます。

例（5）をみると、「저의 모든 것을 바쳐서（わたくしのすべてを捧げて）」という表現が繰り返し用いられていることが分かる。朴大統領は、自分への支持を求める根拠として「自己犠牲」を強調し、「必ず（国民のみんなが幸せな国を）建設する」「必ず（国民幸福時代を）開いていく」と覚悟を語っている。

（6）われわれ自民党３年前に政権を失い、なぜ政権を失ったのかその深刻な反省からスタートしました。信念を見つめなおしてそして政策を鍛えてきたんです。今ここに書かれて訴えている国民との約束、政権公約には私たちはできることしか書いていないんです。

（7）わたしたちは自民党、公明党で政権奪還を目指すのはもちろん、わたしのためではありません。北川知克のためでもない、自民党のためのでもない、それは日本に生まれた個人、この島に生まれたことを喜びに感じ、そして日本に生まれた子どもたちが日本に生まれたことを誇りに思う、その日本を取り戻していくためであります。

一方で、安倍首相の演説では、例（6）（7）のように、政権を失った「過去」に言及し、そのことについて反省していることを強く主張している。また、再び政権交代に挑む理由については、それが一個人や自分たちの利益のためではなく、「日本を取り戻していく」ためであると語ることで、政権への意志を正当化していることが分かる。

6.2.　対立する側の態度、信念・思想を疑う

対立する側の態度や信念・思想を疑うことは、有権者に「なぜ自分でないとダメなのか」をアピールする手段としても用いられる。これは直接的な批判というよりも、聞き手である有権者から否定されるようにほのめかすことで間接的に働くストラテジーであると考えられる。

（8）야당인 민주당은 애국가도 안 부르고 국기에 대한 경례도 거부하는 세력들과 연대를 했었습니다. 이런 세력에게 나라를 맡긴다면 여러분의 삶은 어떻게 될 것이며 우리 후손들의 삶은 어떻게 되겠습니까? 과연 나라를 지켜 나갈 수 있겠습니까? 우리 시민 여러분들의 바른 판단을 기대하겠습니다.

野党である民主党は愛国歌も歌わないし、国旗に対する敬礼も断る勢力と連帯を組みました。こんな勢力に国を任せたら皆さんの生活はどうなり、私たちの後の世代の生活はどうなるのでしょうか。果たして国を守っていくことができますでしょうか。市民の皆さんの正しいご判断を期待しております。

朴大統領の演説からは、例（8）のように、対立する側の政治的な思想を疑うことで自分を正当化する発話が多く現れた。「愛国歌」「国旗に対する敬礼」といった愛国心を強調する象徴を積極的に取り入れつつ、対立する側をそれに反するものとしてほのめかしているのである。このような政治的思想への疑いは、保守政党の代表でもある朴大統領を正当化する手段となっていると考えられる。

（9）確かに「橋下」市長も「松井」知事も新しいことをしっかりと私はやっていると思いますよ。でもこの選挙区から出ている候補は初めてなんです。「みんなの党」の候補者、こう「維新の会」が推してるんですね。どっちがどっちか分かんなくなったでしょう。それでですよ。その人はまったく行政の経験も無ければ、政治の経験もほとんど無くてこの地域のことだってあんまりよく知りませんよ。

一方、安倍首相の演説では、韓国のように政治的思想や態度に言及するよりも、例（9）のように、対立する側の「経験が浅い」ことを指摘し、「資格を疑う」ことで自己正当化を図る特徴が目立った。要するに、朴大統領の演説では「愛国」「安保」といった対立候補の政治的な思想を疑うことが有権者の離脱を防ぎ、自分を正当化する手段となっているが、安倍首相の演説では「経験不足」を指摘することで対立候補から有権者を遠ざけるストラテジーがとられるなど、互いに異なる運用上の特徴が現れたのである。

6. 3.　自分に不利な情報の縮小・隠蔽

自分に不利な情報を縮小・隠蔽するストラテジーは、有権者に否定的な印象を与えず、支持を求めるための重要な手段となる。今回のケーススタディーからは以下のような使用がみられた。

（10）참여정부시절 무너뜨린 중산층이 이명박 정부에서도 복원되지 못 하고 있고 내년에는 더 어려워질 거라는 경고가 나오고 있습니다. 더 이상 이렇게 가서야 되겠습니까? 이제 시대를 바꿔야됩니다. 정권교체 수준을 넘어 시대 교체를 해야합니다.

参与政府（盧武鉉大統領）時代に崩した中流階級が李明博政府でも復元（回復）できていませんし、来年はもっと厳しくなるという警告が出ています。もうこれ以上、このように進んでいいのでしょうか。もう時代を変えなければなりません。政権交代のレベルを超え、時代交代をするべきです。

例（10）をみると、対立する側が政権を担っていた頃、中流階層を「무너뜨렸다（崩した）」として、彼らを否定的な評価の対象となる行為の主体として明示的に表している。一方で自分と同じ政党に所属しており、当時の政権を担っていた第17代李明博大統領の責任は「복원되지 못 하고 있다（直訳：復元されることができていません）」と述べ、最小限に留めていることが

分かる。つまり、「복원하지 못 했다（復元することができなかった）」のような表現も問題なく成り立つが、例（10）のように「－되다（－される）」という受身を表す接辞を取り入れることによって、ウチ集団である李大統領の否定的な情報をできる限り縮小・隠蔽しているのである。これによって李大統領と政治的共同体である自分への批判を避けようとする正当化が図られていると考えられる。このような縮小・隠蔽は「政権交代」ではない「時代交代」という新しいことばの使用からも読み取れる。「政権交代」ということばの中には現在政権を担っている李大統領への批判が含意されるため、通常用いられる表現ではない「時代交代」という新しい命名を用いたのである。「時代を交代する」といった抽象的なレベルのことばを持ち込み、否定的な情報を隠蔽する正当化のストラテジーとして用いていると考えられる。

次に、日本の安倍首相の演説における責任の縮小と隠蔽について述べる。例（11）では、2012年の選挙当時、自民党が政権維持に失敗し、民主党による政権交代を防ぐことができなかった原因について「デフレ脱却」を挙げている。つまり、3年前に選挙で負けた理由は自民党内部の問題ではなく、当時の経済状況の厳しさのためであることを強調し、責任回避を行なっているわけである。

（11）長い間デフレが続いてそして円高が進んできました。その中で国民は苦しんでいる。自民党時代円高は是正しましたが、デフレからはもう一息で脱却はできなかった。この反省を込めて3年前の自由民主党とは違うパワーが違う次元の違うデフレ脱却へ向けた経済政策を進めていきます。

この例は一見すると、過去の失敗といった自分の否定的な情報を示し、自己反省を行なっているようにみえる。しかし、ことばの選択に注目すると、反省よりも失敗や責任を負うべき事実について縮小、回避することによって自己正当化を図っていることが分かる。

まず、「もう一息」という表現に注目したい。例（11）では「自民党時代円高は是正しましたが、デフレからはもう一息で脱却はできなかった」と述べられ、「Aは是正したが、Bはできなかった」といった逆接構造を取り入れている。ここで、Bの前に「もう一息で」ということばが用いられ、まるで問題解決にほぼ近づいていたのに、民主党への政権交代という不本意な出来事により失敗したかのように描写しているわけである。van Dijk（1993）は、ウチに関する否定的情報は控え、強調しない（Mitigate our bad properties/ actions）ことが自己正当化の方法であると指摘しており、上の例（11）からも同様の自己正当化が伺える。また、「デフレ問題」の解決に失敗した事実を「デフレから脱却できなかった」と描写している点も注目される。「～から脱却」、「できない」などの表現から、否定的な自分の情報を強調せず、その影響を縮小していることが分かる。その後、これらの表面上の反省を踏まえた上で新しく政権に挑む覚悟について「3年前の自由民主党とは違う、パワーが違う、次元の違うデフレ脱却に向けて」

と言及している。ここでも「デフレ問題」は積極的に「解決」するものではなく、「(問題) から逃れる」ことのように取りあげられている。政権維持に失敗した過去の自民党とは「パワー」も「次元」も違うと強調し、最終的には政権交代への意志を正当化している。

6.4. 対立する側の不利な情報を取り上げ、批判する

対立する側の不利な情報を取り上げ、批判するというストラテジーは、§6.2で取り上げたような「態度、信念・思想を疑う」ことと違って、相手を直接的に批判するものである。単に、否定的な情報に言及するだけではなく、事実の有無とは関係なしに誇張、捻じ曲げることによって対立する側を直接批判することができる。以下は、朴大統領の演説にみられた例である。

(12) 여러분 지금 민주당은 입만 열면 새 정치를 말하고 있습니다. 과연 무엇이 새 정치입니까? 정권 잡으면 자신들의 정당을 부수고 신당부터 만들겠다는데 여러분이 바라시는 새 정치가 이런 것입니까? 지금 고단한 민생을 챙기기도 바쁘고 거기에 모든 정성을 쏟아도 시간이 부족한 때가 아니겠습니까? 국민들 삶에서 실질적인 변화를 만들 생각은 하지 않고 맨날 정치공학적으로 생각하고 이벤트 하고 쇼를 하는 것 이게 새 정치는 아니겠지요? 이런 구태의연한 생각을 가지고 있기 때문에 새 정치가 안 되는 것 입니다.
皆さん、今民主党は口を開いたらいつも新しい政治を語っています。果たして何が新しい政治でしょうか？政権を担ったら自分たちの政党をつぶし、新しい政党から作ると言っていますが、皆さんの望んでいる新しい政治とはこんなものでしょうか。今はつらい民生を取りまとめるだけでも忙しいですし、そこに全ての真心を込めても時間が足りない時ではないでしょうか。国民の生活の中で実質的な変化を作ることは考えずに、毎日政治工学的に考えてイベントをしたり、ショーをしたりするこんなのが新しい政治ではないでしょうね。こんな旧態依然とした思考を持っているから新しい政治にならないのです。

例 (12) をみると、対立する側である民主党について、国民を思うよりも政治的な利益ばかりを考えていると批判している。注目したいところは、批判を行なう中で有権者である聞き手に問いかけを用いている点である。「皆さんの望んでいる新しい政治とはこんなものでしょうか」「こんなのが新しい政治ではないでしょうね」のように、同意を求めるような問いかけを用いることによって、聞き手を巻き込み、対立する側への批判を行なっている。

(13) 民主党というのは、日本の教育を歪めてきた日教組によって支えられてるんですよ。はっきり言わしていただく。幹事長はあの「輿石東」さんでございますよ。文部科学大臣政務官は2代続けて「日教組」の前職の役員なんですよ。これは相撲取りが行司になるようなもんだ。こんな政党、みなさん、子どもたちの未来を任せることができますか。

できないんですよみなさん。

一方、安倍首相の演説からも、例（13）のように、対立する側を批判する際に、自問自答のような問いかけや聴衆にむかって呼びかけることが多くみられた。また、民主党の幹部が日教組の役員であったことを指摘し、「これは相撲取りが行司になるようなもんだ」と喩えている。ここで注目したいところは、前述した朴大統領の演説では、批判の理由付けが「民生を考えずに、政治的な工作ばかりしているから」であったことに比べ、安倍首相は「日教組との関連」といった批判の理由を提示している点である。今回のケーススステディーの結果だけを考えると、朴大統領は論理よりも相手の感情に訴えるような形で対立する側を批判し、正当化を図っているということがいえる。

6. 5.　倫理的価値を評価する

倫理的価値を象徴として示し、評価するストラテジーは、社会通念や価値観、美徳として取り上げられる概念を用いて正当化を図ることである。

（14）오늘 앞에 커다란 태극기가 있었습니다. 오늘은 그 태극기가 더욱 저의 가슴에 사무치게 와 닿습니다.

今日、前に大きな太極旗がありました今日はその太極旗がしみじみと私の胸に応えます。

（15）그러기에는 너무나도 소중한 나의 삶, 우리 가족, 우리 나라입니다. 또 우리는 후손들에게 정말 든든하고 확실한 행복을 보장할 그런 나라를 넘겨줘야될 책임이 있습니다.

そうするにはあまりにも大切な私の人生、我が家族、我が国です。また私たちは次の世代に本当に頼りになる確実な幸福を保証するそのような国を渡せなければならない責任があります。

前述した通り、韓国の朴大統領の演説では「愛国」「安保」の価値が重んじられるが、これらの例でも、「愛国心」と「安保意識」という論理的価値を「太極旗（韓国の国旗）」に投影し、象徴として用いていることが分かる。また例（15）からも分かるように、「頼りになる確実な幸福」に言及し、自分がその適任者であると説得している。一方、日本の安倍首相の演説からは、「勤勉」や「努力」などが倫理的価値として取り上げられ、正当化に結びついていることが分かる。

（16）三年前に北川さんが選挙に負けた以来、（A）誰よりも多く地域に立って誰よりも多くの地域の方々と会って話をして、みなさんの悩みを聞き、悩みをともに分かち合って未来に向かって同じ夢を見ようその思いでずっと雨の日も雪の日も頑張ってきたのが北川さんですよ。（B）わたしは本当によく頑張ってきたと思う。（C）こういう真っ当な、

真っ当な政治家が選ばれることによって真っ当な政治を取り戻していくことができるんです。

例（16）をみると、安倍首相は「対立する勢力」と「自分または自分が応援する立候補者」を二分化して描写している。前者を「まったく行政の経験もない」「政治の経験もほとんどない」「この地域のこともよく知らない」と否定的に捉える一方、自分の応援する立候補者については（A）のように言及し、対立候補とは異なり、経験豊かで地元住民との連帯も図る人であると位置づけている。このことについてその後の（B）で「わたしは（この候補が）よく頑張ってきたと思う」といった個人的な評価を下し、（C）の「こういう真っ当な政治家が選ばれることによって真っ当な政治を取り戻していくことができる」という定義付けることによって主張の根拠に結び付けている。つまり、「真っ当な政治を取り戻す」ことは当時政権を担っていた民主党政権を「真っ当でない」存在として間接的に批判し、自己正当化を図っていると考えられる。

7. 正当化ストラテジー【タイプC】：ラポート（rapport）による一体化

正当化ストラテジー【タイプC】には、〔1〕有権者を権威化し、参加を促す、〔2〕同意・共感の提示による連帯化、〔3〕希望的未来の提案、〔4〕危機状況を取り立てるといった4つの下位ストラテジーがある。これらは、話し手である政治家が聞き手である有権者の感情に訴え、何かしらの働きかけを行なうことで正当化を図るストラテジーである。

7. 1. 有権者を権威化し、参加を促す

有権者を権威化し、参加を促すストラテジーは、話し手である政治家の権威よりも市民、国民として取り上げられる有権者の権威を優先して認めることである。例えば、投票への参加を促したり、自分への支持を求めたりするために、有権者をほめたてつつ、正しい判断のできる存在、変化を主導できる能力のある存在のように描写することがこれに該当する。

（17）우리 시민 여러분들의 바른 판단을 기대하겠습니다.
市民の皆さんの正しいご判断を期待しております。

（18）여러분께서 시대 교체의 깃발을 높이 들어주십시오.
皆さんが時代交代の旗を高く掲げてください。

（19）결코 마타도아나 흑색선전이 이걸 가지고 장난쳐서 나라의 운명을 바꾸게 할 수는 없습니다 여러분. 야당의 무분별한 흑색선전, 여러분으로 손으로 막아주십시오. 그래봤자 아무 소용이 없다는 것을 확실하게 보여주십시오.
決して中傷やデマが、これをもっていたずらをして、国の運命を変えさせるにしてはい

けません皆さん。野党の無差別なデマ、皆さんの手で阻止してくだい。そんなことしたって何の意味もないということを確実に見せてください。

（20）北川知克に力と勇気を与えてください。よろしくお願いします。

例（17）～（20）をみると、「皆様の正しいご判断」「時代交代の旗を掲げてください」「阻止してください」「力と勇気を与えてください」など、聞き手である有権者に積極的な行動と参加を求めることが多いことが分かる。このように選挙の場面において有権者の役割を認め、権威付けることによって自分への支持を促すストラテジーとして用いることが可能であると考えられる。

7. 2.　同意・共感の提示による連帯化

同意・共感を示すことで連体を図るストラテジーは、有権者に感情移入し、その立場を代弁するように語ることである。

（21）또 보육비、교육비 때문에 우리 부모님들 얼마나 힘드십니까？아이들은 아이들대로 또 행복하지 못 합니다.

また保育費、教育費のせいでご両親の皆さん、どれだけ大変でしょうか。子供は子供で幸せになりません。

（22）そして金融政策をやってもすぐには民間の投資が出てこない、消費もあるいは雇用も出てこない、2 年 3 年かかる場合があります。しかし、来年再来年、就職をしなければいけない高校生や大学生、辛い気持ちで冬を迎えさせるわけにはいかないんです。ですからまずは国が公共投資をして、そして投資を促していきます。消費を促す。そしてしっかりと雇用を作っていきます。

話し手である政治家は、有権者の立場を配慮し、察することのできる存在として描写されることが多い。例えば、（21）では、「どれだけ大変でしょうか」のように、子育ての苦労に対する理解を示している。また、（22）では、金融政策と公共投資の正当化を図るため、「就職をしなければいけない高校生や大学生、辛い気持ちで冬を迎えさせるわけにはいかない」など、「辛い」「大変だ」などの形容詞を用いることで共感を示していることが分かる。このストラテジーは、今回のケーススタディーの結果では、日本ではあまり現れず、（22）のみであったことに比べ、韓国では頻繁に用いられていることが特徴的であった。

7. 3.　希望的未来の提案

希望的未来を提案することによって政治家は有権者の支持を集めることができる。これらは主に演説者が目指す価値または理想とする社会に関する陳述として示される。今回の分析デー

タからは、以下のように、韓国の朴大統領の演説でのみ、このようなストラテジーの使用が確認された。

(23) 혁명적인 변화만이 여러분의 삶을 나아지게 할 수 있습니다.
革命的な変化だけが皆さんの生活を改善することができます。

(24) 우리 시민 여러분이 꿈꾸시는 국민 행복시대 그게 다른거겠습니까? 아이 키우고 교육 시키는 것이 축복이고 기쁨이되고 또 우리 청년들이 열심히 내가 노력하면 내 역량을 맘껏 발휘할 수 있는 희망이 있는 나라라고 믿고 있고 노후가 불안하지 않고 폭력에 시달리지 않고 이런 장사할 맛나고 살 맛 나는 나라 이런 나라가 국민 행복시대인데 이것을 우리가 언제까지 마음속으로만 언젠가는 되겠지 그런 때가 언젠가는 올꺼야 이렇게 하고 살 수 있겠습니까.이번에야 말로 확실하게 국민행복시대를 열어야하겠습니다.
市民の皆さんが夢見る国民幸福時代、それは他ではないでしょう。子供を育てて教育させることは祝福であり、喜びとなり、また若者が一生懸命に頑張れば自分の力を思い切って発揮できるという希望のある国だと信じ、定年した後が不安ではない、暴力に苦しむこともなく、こういう生き甲斐のある国、こうした国が国民幸福時代なのに、私たちはいつまでも（そういう時代が）いつか出来るだろうと心の中で願っているだけではいけません。今回こそ確実に国民幸福時代を開いていかねばなりません。

大統領選挙当時、朴大統領は「国民」「幸福」などの表現を繰り返している。「子育て」「頑張れば力を発揮できるという希望のある国」「定年後の不安や暴力の無い国」「生き甲斐のある国」と列挙し、これらが「国民幸福時代」であると、希望的未来をスローガンとして掲げていることが特徴的であった。

7.4. 危機状況を取り立てる

危機状況を設定し、取り立てることは有権者の不安を刺激する。このように問題を設定し、または敵を規定した上で、自分がその問題を解決し、敵と戦うことのできる存在であると描写することによって、有権者を説得し、権力意志を正当化することができると考えられる。

(25) 오늘 아침 북한이 국제 사회의 결의를 무시하고 세계에 정면으로 도전하면서 미사일을、장거리 미사일을 발사했습니다. 대한민국과 세계에 대한 이런 도발에 전 세계가 한국을 주목하고 있습니다. 국민과 나라의 안전이 위협받고 있습니다.
今朝、北朝鮮が国際社会の決議を無視して世界に対してもろに挑戦しながらミサイルを、長距離ミサイルを発射しました。大韓民国と世界に対するこのような挑発に全世界が韓国に注目しています。国民と国の安全が脅されています。

(26) まぁ、デフレ、円高、まぁ、難しい実状でありますが、要はデフレ経済というのは一

生懸命頑張って頑張って働いても収入が増えない、逆に減ってってしまう。これ、この、問題なんですよ。そして円高、この「寝屋川」でも朝早く起きて知恵を出して頑張っていいもの作っているものづくりの工場たくさんある。でも円高によって競争力を失って工場を閉めざるを得ない。何代も続いているお店を閉めざるを得ない。あるいは大きな工場が海外に出て行って働く場所を失っている。これやっぱりおかしいんです。

例（25）（26）をみると、いずれも危機を及ぼす原因となった状況について説明する「陳述」が行なわれ、最後にはその状況に対する解釈を行なっている。この「解釈」のところで「脅し」や「否定的な未来の提示」がなされることとなる。（25）の場合は、「北朝鮮のミサイル発射」が取り上げられ、それによって国と国民の安全が脅されていると述べることによって、安保問題に対する有権者の不安を刺激することができる。これによって保守という政治的イデオロギーを正当化することが可能となる。一方、（26）の安倍首相の演説では、主に経済面における危機を取り上げている。危機状況について列挙した最後には「これは問題なんです」「やっぱりおかしいんです」といった意見を示し、問題化していることが分かる。

8. 考察

従来の先行研究における正当化の分析観点を【タイプA】【タイプB】【タイプC】の3つに再分類し、その有効性を実際のデータに基づくケーススタディーによって検証した結果、以下のようなことが分かった。

【タイプA】リポート（report）による権威付け
（A）社会的に合意されたルール（法律、規則、規定など）、専門家による証言の持ち出しは、今回のケーススタディーに用いたデータでは用いられていなかった
（B）「統計・数値の持ち出し」は日本の演説で1回のみ用いられた
（C）「特定・不特定多数の支持層を味方として提示」による権威化が多数確認された

【タイプB】二分化による対立のフレーム作り
（D）自己犠牲と自己反省を語ることによって権力意志を正当化できる
（E）韓国では、対立する側の政治的思想を疑うことで自己正当化が成立する
（F）日本では、対立する側の経験、能力などを批判することが自己正当化につながる
（G）自分に不利な情報を縮小・隠蔽する際、受動表現を用いた責任回避が観察された
（H）倫理的価値は、韓国では「愛国」「安保意識」などが、日本では「勤勉」「努力」が主に

評価されている

【タイプC】ラポート（rapport）による一体化
（I）有権者を権威化し、影響力のある存在として描写する
（J）修辞疑問文を用いて相手に同意、共感を示すことで連帯を図る
（K）希望的未来を提案する際、「列挙」と「スローガン」が用いられている
（L）危機状況の取りたては、内容面では韓国は「安保」、日本は「経済」といった違いがみられるが、いずれも「状況説明」－「状況に対する意見陳述と評価」という流れで構成されている

これらの結果は、正当化ストラテジーを異文化間対照する上で有効な分析枠組みを検証するためのものであり、日本と韓国の政治ディスコースにおける運用上の違いを一般化するものではない。従来の分析枠組みを再分類した【タイプA】【タイプB】【タイプC】の3つのストラテジーが実際の談話例ではどのように駆使されるのか、それに関する仮説としての性格が強いといえよう。結論として、上述の結果から考えられる仮説としては、以下の3点が挙げられると考えられる。
《仮説1》街頭演説では、【タイプA】リポート（report）による権威付けのような論理の根拠を示すストラテジーよりも、【タイプB】二分化による対立のフレーム作りや【タイプC】ラポート（rapport）による一体化のような対立関係を際立たせ、有権者に訴えるストラテジーが多用される
《仮説2》日本よりも韓国の政治ディスコースにおいて、有権者の感情を刺激し、訴えるようなストラテジーが頻繁に用いられる
《仮説3》倫理的価値の評価は、日韓それぞれの社会・文化的な要因によって影響される

9. おわりに

本稿では、政治ディスコースにおける正当化ストラテジーを異文化間対照するための分析枠組みを検討するため、従来の先行研究を概観し、新たに3つのストラテジーのタイプを提案した。その後、日本と韓国の政治家によって行なわれる街頭演説を取り上げ、ケーススステディーを行なった。その結果、《仮説1》街頭演説では【タイプA】のような論理の根拠を示すストラテジーよりも【タイプB】や【タイプC】のような対立関係を際立たせ、有権者に訴えるストラテジーが多用される、《仮説2》日本よりも韓国の政治ディスコースにおいて有権者の感情を

刺激し、訴えるようなストラテジーが頻繁に用いられる、《仮説3》倫理的価値の評価は、日韓それぞれの社会・文化的な要因によって影響される、という3つの仮説を発見することができた。今後は、これらの仮説を検証するため、分析データを増やし、一般化可能な考察を試みることを課題としたい。

参考文献

足立幸男（1984）『議論の論理―民主主義と議論』木鐸社.

イ・グィヘ（이귀혜 2007）「한국 대통령들의 설득 수사학―에토스・파토스・로고스의 개념을 중심으로―（韓国大統領の説得修辞学―エトス・パトス・ロゴスの概念を中心に―）」『한국소통학보（韓国疎通学報）』8-8, pp. 276-312, 한국소통학회（韓国疎通学会）.

川上信夫（1986）『人間変革の道程としての説得』現代教育科学明治図書.

高田博行（2014）『ヒトラー演説―熱狂の真実―』中央公論新社.

吉田正生（1990）「小学校社会科教科書にみられる「説得技法」の研究－「政治学習」の記述を手がかりに－」『社会科研究』38, pp.42-58, 全国社会科教育学会.

Fairclough, N.（1989）. *Language and Power*, London: Longman.

――――――（2003）. *Analysing Discourse:Textual analysis for social reserch*『ディスコースを分析する－社会研究のためのテクスト分析－』ノーマン・フェアクラフ著；日本メディア英語学会談話分析研究分科会訳，くろしお出版.

Ilie, C.（Ed.）（2010）. *European Parliaments under Scrutiny*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Rojo, L. & van Dijk, T.A.（1997）. There was a Problem, and it was Solved!: Legitimating the Expulsion of 'Illegal' Migrants in Spanish Parliamentary Discourse. *Discourse & Society,* 8(4), 523-566.

van Dijk, T.A.（1993）. Principles of critical discourse analysis. *Discourse&Society*, 4, 249-283.

――――――（1995）. Discourse semantics and ideology. *Discourse & Society*, 6(2), 243-289.

Van Leeuwen, T.（2005）. *Introducing social semiotics*. London&NewYork: Loutledge.

（博士後期課程学生）

（2017年8月17日受付）
（2017年10月15日修正版受付）
（2017年11月17日掲載決定）